

# 「しし座流星雨の夜」

桑田直宏

天文ファンが一生のうちで一度は見てみたいと思う天文現象は、1. 皆既日食 2. 大彗星 3. 流星雨がベスト3になるのではないのでしょうか。

皆既日食は地球上で毎年のように起こる現象なので、見ようと思えばいつでも体験できる時代になりました。大彗星も数十年の間には見る事が出来るのではないかと思います。

流星雨は、流れ星が1時間に数千個から数万個流れる現象です。

右の絵は1833年と1866年のしし座流星雨の大出現の様子を描いたものですが、夜空が焼けけるかのような流星雨を自分の目で見てみたいと思うと同時に、いつかわからない現象だけに無理だろうと思っていました。



ところが、中学生(1970年)の時から3つの夢は、1996年からのわずか5年の間に実現することになりました。1996年

に百武彗星、1997年にはヘール・ボップ彗星とたて続けに歴史に残る大彗星が出現。2001年には皆既日食をアフリカ・ザンビアに出かけて達成することが出来ました。残る夢は流星雨です。しかしこれだけはなかなか達成できません。流星雨になると騒がれた1972年のジャコビニ群は全く流れず。33年ぶりに期待された1998年と1999年のしし座流星群はヨーロッパで1時間に数千個レベルの流星雨になったが、日本では残念な結果に終わりました。

もう無理と思っていたところに現れたのがイギリスの若き天文学者アッシャー博士です。博士は1999年しし群のヨーロッパの大出現などを2度にわたって理論で予測して的中させました。その彼が次は2001年に日本を中心としたアジアで大出現すると発表したのです。しし群は33年に1回しか流星雨にならないんじゃないの?にわかには信じられません。しかし、博士の実績から確信をもって準備をして、11月17日を迎えることが出来ました。

当日は星なかまひめじの皆さんと峰山観測所に出かけました。到着してしばらくは曇っていましたが、西の方で観測していた方からの連絡で晴れだしていることがわかり、夜半前から撮影の準備に取りかかりました。しし座はまだ地平線近くのはずですが、仲間から何度も歓声があがります。しし群の長経路の流星が流れ出したのです。予測は完全に確信に変わりました。それからは忘れられない光景となりました。しし座を中心とした全天に次から次へと流星が雨のように降り注ぎます。ピークは午前2時頃でした。満月クラスの火球が痕を残し、そのすぐ近くをまた大火球が流れていくのです。その様子は想像をはるかに超えたものでした。

夜明け近くに機材を撤収して播但連絡道で帰路につきましたが、フロントガラス越しに、空が白み始めた中を次から次へと流星が流れ落ちる光景は今でも強く印象に残っています。